

# 令和2年度 京都府立木津高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(実施段階)

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営計画)
<p>・地域から愛され、生徒一人一人が輝く学校</p> <p>・生徒の能力を最大限に伸ばし、将来展望を持たせ、進路を決めて卒業させる学校</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>地域との連携を深めた特色ある学校づくりを推進する</li> <li>教育活動をととして、規律ある行動とコミュニケーション能力の向上を図り、自分を大切に、他者を思いやる心を育てる。また、安心安全で充実した教育環境を整備する。</li> <li>生き生きとした学習活動を公開し、地域から信頼される学校づくりを押し進める。</li> <li>自己理解を深めるとともに、目的意識を高めさせ、自らの進路を主体的に切り開く能力や責任ある行動力を身につけさせる。</li> <li>学習環境の整備や教職員の資質向上に努め、学校の評価を高め、信頼される学校づくりを押し進める。</li> <li>新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導・評価の充実と、相違工夫を活かした特色ある教育活動を展開する。</li> <li>ICT教育の充実を図るとともに、ネットワークを活用した休業中の学習支援の充実を図る。</li> </ol>	<p>平成31(令和元)年度は前年度の成果と課題を踏まえ教職員が一丸となって本校の教育活動を前進させることができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学校評価について 先生が授業を大切にしている、先生の学習時の対応、マナー指導の充実、進路実現指導、進路情報提供等の項目について、生徒アンケートで高い評価を得ている。三年生の入学満足度は91%であった。さらなる上昇を目指す。保護者アンケートでは、本校の教育活動への評価と、生徒の充実した高校生活について、約85%の肯定率である。しかし、教育活動が保護者から見えやすい、生徒が意欲的に学習に取り組んでいる、の2項目については、肯定率が50%台であり、次年度の重点課題とする。</li> <li>進路指導について 平成30年度から新設された「特進エリア」の進路指導体制を定着させることができ、組織的な進路体制の構築が進んだ。また、就職希望者への指導の徹底により就職内定率100%である。 次年度が新進路指導体制3年目であり、生徒の進路実現のさらなる充実につなげる。</li> <li>地域連携等について 地域連携は、専門学科および普通科連携コースでの取組により、昨年以上に充実・発展させることができた。地域清掃活動の16年間継続実施をもとに環境大臣表彰を受賞した。次年度は、SDGsを重視した地域連携も前進させたい。</li> <li>命を大切にしたい取組 生徒の生命の尊重を第一に考え、迅速かつ丁寧な対応を行うとともに、いじめ防止に向け、いじめアンケートの実施のほか、全校生徒から木津高生権啓発標語の取組みを行った。次年度は、早期に薬物乱用防止のさらなる充実を図る。</li> <li>規範意識に関する取組について 生徒指導部を中心に、身だしなみ指導を充実させ、帰属意識の定着を図ることができた。今後、教科指導を粘り強く行い、また、授業改善を推進し、生徒の学力向上を図ると共に原留・中退等を減少させ、生き生きと充実した高校生活の充実を目指す。また、部活動、清掃活動等をさらに充実させ、情操教育をさらに進める。</li> </ol>	<p>【重点課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動が保護者から見えやすいようにする</li> <li>生徒が意欲的、主体的に学習に取り組むよう授業改善を行う</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>創立119年、木津高校の歴史と伝統ある建学の精神を継承しつつ、2030年代を見据えて、3つの学科の学びを、それぞれ主体的で対話的で深い学びとなる新学習指導要領の趣旨を踏まえ教育活動を実施する。また、指導と評価の一体化、「わかる授業」のための授業改善をさらに推進し、生徒の主体的な学びの意欲向上を図る。</li> <li>生徒の能力を最大限に伸ばし、希望進路の実現を図り、卒業させる。</li> <li>粘り強い学習指導を通して原留・中退・転学等を限りなく0に近づける指導を徹底する。</li> <li>部活動の加入率70%以上を目指し、部活動のさらなる活性化を図る。また、学校行事に積極的、主体的に取り組むよう常に工夫・改善に努め、学校生活の一層の充実を図るとともに、生徒・保護者の学校満足度のさらなる向上を目指す。</li> <li>清掃活動を自己研鑽の中心に位置づけ、心身の健全な発達と母校を愛し、誇りの持てる高校生活の醸成を目指す。また、あいさつを励行し、ボランティア活動の一層の推進や地域連携、地域行事への積極的な参加等をととして、119年の歴史を誇る本校の建学の精神である地域に愛される、地域の高校としての存在感を高める。</li> <li>引き続き工夫を凝らした広報活動を積極的に展開し、本校の特色ある教育活動を正しく、広く理解していただくとともに、積極的に授業、学校行事を公開し、保護者にも教育活動が見えやすくするとともに、地域に開かれた学校としての取組を推進する。</li> <li>自他を大切にしたい人権感覚の育成に重点を置くとともに、身だしなみ違反や遅刻の根絶等、基本的生活習慣を確立する。また、全員が安心して安全な高校生活をおくれるよう規範意識の確立と授業規律を徹底するとともに、人権教育、薬物乱用防止教育等の命と健康の教育、交通安全教育を推進する。</li> <li>新型コロナウイルス感染症対策会議を校内に設置し、生徒の健康第一の上での望ましい教育活動の在り方を検討し、生徒の学力、体力、情操を育むを教育活動を推進する。</li> </ol>

分	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題		
教務部	修学保障	原級留置・中途転退学者数を限りなくゼロに近づける。	欠席過多生徒・成績不振の生徒に対する指導について学年部のみではなく、各教科担当との連携を密にし、昨年度人数より減少を目指す。各学期末において、成績会議を開催し、各生徒の成績状況の情報共有を図るとともに、成績不振生徒に対する丁寧な学習指導に力を入れる。課題を抱える生徒への面談やアプローチの仕方について、より効果的な実施の仕方、時期を検討する。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期の成績の状況を踏まえ学年部と連携し、進級が危ぶまれる生徒に対し、成績面談を実施した。</li> <li>・各学期の成績会議資料だけでなく、各学期の中間考査後にK-Alertを全教員に配布し、生徒の情報共有と学年部の面談が行えるよう資料を提供した。また、学年部と連携し考査前に成績不振者の補習を設定した。</li> <li>・2学期は授業アンケートを全科目実施することができた。またその結果を分析し、教科主任会議で情報共有をはかった。次年度も公開・研究授業週間や授業アンケートを実施し、改善を図り、学力向上につなげたい。</li> <li>・教務の手引きについては、見やすくわかりやすく改善できた。</li> <li>・図書委員会主催の図書館フェアを通じて、図書館利用の促進をすることができた。次年度に向け日程やイベント内容について検討していきたい。</li> <li>・Classiを活用して「図書館だより」「新着図書案内」を発行した。</li> </ul>	
	学習指導	授業規律を確保するとともに、授業改善を推進して学力向上を図る。	授業改善につながる取組（公開・研究授業週間、授業アンケート等）を効果的に実施し、授業改善を通じて学力向上につなげる。学力向上につながる取組を他分掌と連携して効果的に実施する。	3				3
	学校運営	学校運営上のマニュアル、手引き、各種届け様式等の見直しを図る。	マニュアル、手引き、各種届け書等の見直しを図り、全教職員が効率的に作業ができるようなルールづくりを行う。	3				3
	図書館活動	図書館での活動を通して、生徒の学力・人間力の向上を目指し、社会で通用する能力を身につけさせる。	生徒及び教職員に図書館の利用を促進する。図書委員会の活動に生徒たちを積極的、主体的に取り組ませる。Classiを活用するなど、有効な広報活動を行う。	3				3
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を目指す。	社会の一員としての自覚を育てるために、定められた時間に登校できるよう毎朝校門にて、あいさつ運動とともに遅刻防止指導を行う。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻指導として、遅刻が規定の回数を超えた生徒4名に面談指導と書写指導を行った。SHRが朝になったことによる、遅刻数増加が来年度に向けての課題である。</li> <li>・身だしなみ指導は2月に身だしなみ指導強化週間を行うなど年間を通じて指導を行った。昨年度より減少したが、今年度165件の指導とまだまだ改善が必要な状況である。</li> <li>・携帯電話指導は82件と減少傾向にあるが、今後も引き続き規則を守る指導が必要である。</li> <li>・非行防止教室と薬物乱用防止教室は外部講師を招くことができず、DVD学習で実施した。</li> </ul>		
			登下校時を含め、学校生活全体を通じて、身だしなみが整った状態で過ごすことができるよう統一した指導を行う。	2				
			携帯電話やスマートフォンの使用ルールを遵守するよう、統一した指導を行う。	3				
	保護者や地域、関係機関と連携し、安心・安全な学校生活の構築を図る。	外部関係機関と連携を密にし、生徒の安全に留意した指導を行う。いじめの早期発見・早期解決といじめを許さない心の育成指導を行う。	3	3				
特別活動	規律ある集団生活の中で、生き生きとした教育活動を推進する。	生徒会、クラス委員、部活動の校外外での奉仕活動等を通して、地域への連携を深めるとともに他者を思いやる心を育てる。部活動に参加しやすい環境をつくり、一人ひとりが達成感・充実感を得られるようにする。	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任を中心に保護者と連携し、面談等を繰り返すことにより、生徒に寄り添う指導を実践できた。</li> <li>・コロナ禍で行事の中止が相次ぐ中で学年別スポーツ大会を実施でき、クラスの輪を大切に、団結できる行事となった。</li> <li>・仮入部期間を設定し、新入生全員が部活動を体験できるように実施した。来年度に向けて部活動加入率が上がる対策を講じたい。</li> </ul>			

キャリア教育推進部	進路指導	希望進路実現のために就職指導、進学指導体制を充実させる。	就職希望者に対する指導体制のさらなる充実及び強化を図り、希望者全員の内定を得る。 3年目を迎えた各学年の特別進学プログラムをチームを中心に各学年及び各教科と連携しながらより効果的に実施し、進学指導体制「守破離」の確立に向けた指導を行う。 進路シラバスを基に系統的な進路学習を実施し、適切な情報提供を行い、生徒の進路意識をさらに向上させ、希望進路実現に向かう。	3 3 3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響により就職補習の回数は減ったが、学年部と連携し就職指導体制の充実及び強化を図ることができた。1月末現在93.3%の内定率であった。</li> <li>・完成年度となった特別進学プログラム「守破離」において学年・教科と連携し粘り強く指導し、大学入学共通テストに10名が受験するなどの成果があった。</li> <li>・進路シラバスを基に年間を通して、分野別学習会や進路LHRを実施することができた。</li> </ul>
	中高連携 広報活動 PTA活動	本校の教育活動に興味・関心を持つ中学生に多く受験し入学してもらうために、中学校との連携をより強化する。本校の特色ある教育活動を、中学校、地域社会、企業、大学へ広報する。	中学校訪問や中学校教員対象の説明会の実施、あるいは中学生対象の説明会や専門学科セミナーの実施により中学校との信頼関係を構築し、特に木津川市、相楽エリアにおいて選ばれる学校を目指す。 各分掌、教科、学科、部活動と連携して、ホームページを積極的に活用したリアルタイムな情報発信を行う。またPTAと連携し、会報などを利用して本校の教育活動を保護者に向けて適正に発信する。	3 3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響により回数は減ったが、2学期以降に学校説明会・部活動体験・進路相談会を適正に実施することができた。</li> <li>・PTA会報「きくふじ」を2回発行することができた。</li> </ul>
保健部	健康・安全	清掃活動の充実を図り、他を思いやる心を育てる。	事務部と連携し、清掃道具の整備と充実に努める。清掃場所を明確にし、生徒と教員がより効率的で清掃しやすい環境を整える。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃分担範囲表を作成し、清掃範囲をより明確にした。</li> <li>・新型コロナ感染予防対策をしながら、各種検診を実施した。</li> <li>・年間を通して消毒作業を行った。特に時差登校期間、感染者が確認された時には重点箇所を明確にし、効率的に消毒作業を行った。</li> <li>・カウンセラーと連携し、便りの配布や心の健康調査を全生徒に実施し、コロナ不安の軽減を図った。</li> <li>・学校適応推進会議、特別支援校内委員会を開催した。スクールカウンセラーや南山城相談支援センターと連携をとりながら個別の指導計画に基づいて支援した。</li> </ul>
		保健活動を通して、生徒の健康・安全を守るとともに将来に繋がる取組を行う。	各種検診の全員受診を目指し、保健活動を充実させる。	3	3		
		支援を要する生徒の対応を関係機関と連携しながら自立と進路実現をめざす。	生徒観察や学校適応推進会議を充実する。スクールカウンセラーや関係機関との連絡を図る。校内委員会を実施し、個別の指導計画に基づいた指導を行う。	3	3		
農場部	農場経営	GAP（農業生産工程管理）を基礎においた農場運営を行う。GLOBALGAPの継続認証を行う。	農場管理記録簿を全部門で記入し実習計画に応用する。 作業の安全を第一とし、そのための整理整頓を実施する。 リスクを共有し対処できるようにする。	3 3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業管理簿の記帳が徹底できないことがあった。</li> <li>・リスク共有に関して共通認識ができ、事前にトラブルを防止できた。</li> <li>・連携事業など、コロナ禍で予定通り進まなかった。</li> </ul>
		学科連携・地域連携・学校間連携をより充実させる。	T.V.F講座・情報企画科連携の内容を充実させる。 大学・自治体をはじめ、他校種との学校連携を充実する。	3 3	3		
情報企画部	学科経営	「人間性豊かな職業人の育成」を理念とした諸活動を推進する。	生徒の能力を最大限に伸ばすために、学科・地域と連携した取り組みをさらに充実させ、情報企画科の特色と魅力をより明確にする。 時間・あいさつ・身だしなみの規律を定着させ、特に「時間を守る」ことを重点項目として全学年に周知し、教員・生徒が共に徹底して取り組む。	3 3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は対外的な活動が限定的となり、生徒が教えるパソコン教室、インターンシップ、社会人講師授業、全商英語スピーチコンテストの実施ができなかった。</li> <li>・ワープロ競技会のオンライン実施やYouTubeでの情報発信など、ICTの活用に活動の可能性を拓けることができ、教員・生徒両方のICTスキルとリテラシ</li> </ul>
		商業科の専門性を生かした進路実現を支援する。	担任と連携してより進路計画を協議し、専門性を生かした進路実現を図る。	3	3		

		専門学科の魅力についてより広く認知されるよう、広報活動の充実を図る。	情報企画科のニュースを内外に発信し、また、引き続き中学生へのマナー講習会を行うことで、学科の取り組みや魅力を中学生に直接アピールする。 地域と連携した課題研究の取り組みを中心として、地域住民にも学校の魅力をアピールする。	3	3	一の育成が次年度以降のテーマとなる。 ・中学生へのマナー講習会、中学校への個別訪問、ニュース配信により広報活動を強化でき、近隣校への情報発信に一定の成果を挙げることができた。次年度にはさらに強化を重ね、学科の魅力を伝えたい。	
第一学年部	学校生活	基本的な生活習慣を確立し、目的ある性豊かな集団を育成する。	ルールを守らせる等の規範意識の確立を図る。 授業規律を守り、授業を大切にすることで、学習環境を整え、基礎学力の定着を図る。 身だしなみや挨拶、時間を守るなどの指導を徹底する。 生徒、及び授業担当者や保護者との連携を深めて情報を共有し、迅速な問題解決を図る。	3 3	3	3	・授業態度や学校生活に問題のある生徒に対して、授業規律やルール、マナー等の指導を教科担当の先生や生徒部と連携して行うことができた。また、問題のある生徒に対して担任を中心として保護者連携を密にし、必要に応じて面談を行うことができた。 ・コロナ禍による生徒の学習補償のため、定期考査前の放課後に教科担当による学習会を行い、生徒の学力向上を図ることができた。 ・コロナ禍により行事の中止が相次ぐ中で行われたスポーツ大会において、クラスの和を大切に、団結できるよう指導することができた。
		部活動および学校行事に積極的に参加し、協調する姿勢を養う。	部活動参加を積極的に推進する。 校外学習・文化祭・体育祭等の行事において、主体的計画のもと、協力して取り組ませる。	3 3			
第二学年部	学校生活	学習習慣を確立し、基礎学力の定着を図る。	授業を大切にできる環境づくりと考査前学習会の実施で、学習習慣と基礎学力の定着を図る。	3	3	3	・休校明けは授業態度が悪かったが、担任からの声かけ、巡回指導、教科担当との連携等により、二学期以降は比較的落ち着いた状況で授業を受けさせることができた。 ・コロナ禍で例年のようなオープンキャンパスへの参加ができなかったため、二者面談を積極的に行うなどして生徒が相談できる機会を設けた。 ・始業前や放課後に学習会を設定するなどし、勉強が苦手な生徒の基礎学力を向上させた。 ・10月までは沖縄研修旅行の予定であったので、学年独自の平和学習を行った。また、広島研修旅行への変更や急な行程変更等があったが、柔軟に対応し無事に研修旅行を終えることができた。
		進路に対する意識を高め、自ら目標を定める。	進路実現のために、担任からの日常的な進路指導やキャリア教育推進部との連携を図り、個別に面談を定期的に行い、自ら進路目標を切り開く力を育てる。	3			
		思いやりの心を育み、人権意識を高め、社会性豊かな集団の育成を図る。	身だしなみを整え、日頃から正しい言葉遣いを心がけ、落ち着いた気持ちで学校生活を送れるようにする。 充実した研修旅行の実現に向け、人権学習や平和学習などをはじめとした事前学習・事後学習を計画的に行う。	3 3			
第三学年部	学校生活	進路実現と社会性豊かな資質を身につけさせる。	生徒の希望進路実現にむけ、保護者との密接な連携のもと進路指導をすすめる。 地域に愛される高校の一員として、身だしなみを整え、相応しい言葉遣いなど礼節が養われるようにする。 学校行事や人権学習、清掃活動など日常の活動を通して、自他を大切にコミュニケーションの大切さを自覚させる。	3 3 3	3	3	・希望進路の実現にむけて、生徒および保護者との連携を密にすることを心がけ、指導をすすめた。 ・身だしなみ指導に力を入れ、身だしなみを整えることの重要性を理解させることが出来た。 ・スポーツ大会では、前向きに取り組む姿勢が見られた。人権学習では、差別を許さない人権感覚を培うことができた。 ・教育活動全体を通して、自他を尊重するコミュニケーションの大切さを自覚させることができた。
			施設担当者・技術担当者を中心に施設・設備の点検を実施し、危険箇所等には、早急に対応する。	3			
			北校舎長寿命化事業	北校舎長寿命化工事完成に向けて、本庁担当課、各分掌と連携し、有意義なものとなるよう整備を進める。			
事務部	施設設備管理	安全安心な学校作り	施設担当者・技術担当者を中心に施設・設備の点検を実施し、危険箇所等には、早急に対応する。	3	3	3	・北校舎長寿命化事業は、足かけ4年で完成を迎えた。 ・節電節水に向けて、技術職員を中心に様々な工夫と努力を続けているが、不必要な点灯等がなかなか
		北校舎長寿命化事業	北校舎長寿命化工事完成に向けて、本庁担当課、各分掌と連携し、有意義なものとなるよう整備を進める。	3			

会計管理	効果的な予算執行と適切な会計事務処理	職員相互のチェック・確認体制の定着を図る。	3	3	3	減らないのが現状である。生徒・教職員が一丸となって取り組んでいく必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に関わり、長年の懸案事項であった空調設備について、今年度2教室整備することができた。消毒液等対策グッズの購入等も、予算の厳しい中最優先でおこなった。
省エネ・ゴミ削減と清掃	節電対策の推進	校内を巡回し、不必要な点灯箇所の電灯を消す等節電に努める。	3	3		
	廃棄物量の削減と清掃	清掃活動を自己研鑽の中心に位置づけるという短期経営目標を踏まえ、保健部と連携し、ゴミの分別・節減に努めるとともに、自らも積極的に清掃活動を実施し、生徒の模範となるようにする。	3	3		
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策	生徒の健康を第1に考え、保健部と連携しながら、必要な物品の調達を図る。また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を念頭に置き、生徒、保護者、来客等の窓口対応に当たる。	3	3		

学校関係者評価委員会による評価	<p>①学校評価アンケート結果によると、生徒の満足度も約80%と高く、学校の教育活動が生徒のニーズに合っている。</p> <p>②コロナ禍でのClassiの導入やホームページにより、保護者に対して学校の教育活動が見えやすいのは評価できる。</p> <p>③学校評価アンケートで、保護者の方から環境整備についての指摘があり、全校あげての大掃除の実施などを計画すべきである。</p>
-----------------	---

次年度に向けた改善の方向性	<p>①学校経営方針（中期経営目標）の達成に近づくため、個々の教職員が自分の果たすべき役割を自覚し、分掌部長を中心とした組織体制をより強化するとともに、分掌相互の連携を一層深めながら全ての教職員が共通認識のもとで学校運営に参画する体制を目指す。</p> <p>②新学習指導要領の趣旨を踏まえ、意欲的、主体的に学習に取り組むよう、ICTを活用し授業の質の向上を目指した授業改善を積極的に行う。</p> <p>③保護者や地域等との連携を強化し、保護者や学校関係者と教職員が協力して生徒の教育の向上を目指すことにより、地域から愛される学校を目指す。</p>
---------------	---